

---

# 奴隸商人の娘

沖野弓月

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

奴隷商人の娘

### 【Nコード】

N5747V

### 【作者名】

沖野弓月

### 【あらすじ】

望月莉々子は、気がついていたら森にいた。困っていたところを同じく気付いたらこの世界にいたらしい3人組に拾われるが、同じ立場のはずの3人が自分と比べ遙かに多くの面で恵まれていることを知り愕然とする。      なりゆきでなった奴隷商人の養女という立場を利用して、恵まれた人間全員に復讐するある一人の女の物語。

## とある女の事情（前書き）

誤字・脱字きつと多いです。

稚拙な文章しか書けませんが、宜しく願います。

## とある女の事情

V R M M O R P G “ W i S ” ウイス テストのテスター募集への申し込み  
有難う御座いました。

厳正なる抽選の結果、お客様はご当選されましたので、下記のご確認をよろしくお願い致します。

テスト期間：2088年3月18日（木） 14：00～2088  
年3月21日（日） 12：00

### 参加資格

- ・日本国内に在住する18歳以上、当選者のみ

### テスト概要

- ・レベル上限をLv25とします。
- ・一部マップには進入制限が掛けられています。
- ・一部クエストには受託制限が掛けられています。
- ・ゲーム内にGMキャラクターがログインする場合は御座います。
- ・テスト中に作成したキャラクターデータ等は全てリセットされる予定となっております。
- ・テスト中、何らかの不具合が発生した場合はスケジュール等変更させて頂く場合が御座います点、予めご了承頂けますようお願い

致します。

- ・ テスト終了後、一部仕様や機能の変更、追加機能の実装を行う場合がございます。

- ・ テストは不具合の発見、修正やサーバー負荷の検証、ご参加頂いた皆様のご意見を頂く事を目的としております。期間中ご参加頂いた皆様にご意見を求める場合がありますので、その場合はご協力をお願いします。

## 重要

- ・ ゲーム機本体・ダイブヘルメット・その他周辺機器は、テスト後返却して頂きます。

- ・ ゲーム機本体を設置する場所の確保をお願い致します。  
ある程度耐荷重強度のある水平で安定した場所、3～5畳程度の広さがが必要です。

- ・ 当社が期間中提供する製品はとても高額です。

万一 テスト中に故障した場合に備え、 テストに参加される方全員に免責保険制度への加入をお願いしております。

つきましては、以下口座に8,000円の入金、同封してある免責保険制度加入同意書に必要事項を記入し、3月3日迄に当社にお送り下さい。

- - - - -  
- - - - -  
- - - - -

振込先銀行名： - - 銀行

普通預金

店番号：001（本店営業部）

口座番号：\*\*\*\*\*

名義：

振込手数料等はお客様のご負担となります

入金確認には2営業日ほどかかります

- - - - -

同意書と入金の確認が取れ次第、改めて担当者よりご連絡させていただきます。

免責保険制度加入に同意を頂けない場合は、テストにご参加頂けませんのでご注意ください。

ご意見、何かご不明な点でもありましたら0\* - 3\*78 - \*9\*4迄ご連絡下さい。

## 特典

・ テスト参加者には仮想世界内で役立つ素敵なアイテムをプレゼント！

・ ある特殊クエストをクリアされた方には…特別なプレゼントが？

テスト終了後キャラクターデータはリセットされますが、特典はどちらも正式オープン時に受け取れます。

1アカウントにつき1特典。複数の特典は受け取れませんのでご了承ください。

## その他

テストへの参加資格は当選者のみに御座います。

参加資格を他人に譲渡することは出来ません。

テスト中は、当選者以外の人物による一切のプレイを禁止します。

万一当選者以外の人物によるプレイが発覚した場合は、厳しい措置を取らせて頂きます。

皆様に楽しんで頂けるゲームを目指し関係者一同努めて参りますので、

今後とも“Wis<sup>ウイス</sup>”をよろしくお願い致します。

お客様の、夢溢れる仮想世界への旅立ちをお待ちしております。

\*\*\*

この日アルバイトが終わって家に帰って来てみれば、郵便受けには色々が入っていた。

携帯料金の請求書と電気料金の請求書、ダイレクトメール2通、良く利用している美容室の案内　そして、大きめの白い封筒。

これだけ沢山色々とポストに入っているのも珍しいなと思う。

しかし、白い封筒は一体何だろう…この大きさからして書類の類だろうか。通っている大学から？いや、大学名などどこにも書かれていない。聞いたこともない会社名があるのみだ。

不思議に思いつつも、いい加減寒いしー先ず家に入ろうとバッグの

中から比較的真新しいブランドのキーケースを取り出す。鍵を開けて、ぱっぱとエナメルの黒いパンプスを玄関に脱ぎ捨てた。電気を点け、楽な部屋着に着替えて、化粧落として綺麗に化粧を落とす。

帰宅後毎回行われるいつもの行動パターンをこなしてから、ソファに座った。

そうしてから漸く、例の白い封筒の中身を確認してみることにした。

「……何、これ？」

ちよつと困惑した。

というのも、良く分からない内容の書面と、これまた良く分からない免責保険制度加入同意書なるものが入っていたのである。

“Wis”<sup>ウイス</sup>      テスト？

はつきり言って何それ、である。

一通り文面を読んではみるものの理解など出来ず。

テスター募集の申し込みなんてした覚えなども、私には無い。

そもそも8,000円を口座に入金しろとか…怖いし、怪しすぎるだろう。

これはきつと、アレだ、アレに違いない      新手の詐欺。

不快感に知らず知らず眉間に皺が寄った。

どう考えてもお金を要求されるあたり真っ当じゃない。

詐欺の横行する物騒な世の中では、隙を見せた者が真っ先に喰い物となる。好奇心は猫を殺す…とも言っし、記載されている電話番号に掛けて、この手紙は一体何なのだと尋ねるなんて愚かな行為は絶対にしてはいけないだろう。電話機の前で獲物はまだかまだかと詐欺師が待っているに決まってる。女誑しと詐欺師は口がうまいと昔から決まっているのだ。

甘言に唆されて、騙されるのは御免だった。リスクは冒さない…少しでも不審なものは無視するのが一番。

だから、ぽいつと捨てた。

万一重要な書類だったかどうか、だが。

重要なものだったら…まあ、また何かしらの連絡が再度来るだろう、きっと。だから大丈夫。

きゅる…

ゴミ箱に封筒ごと捨てるや否や、タイミング良くお腹が鳴った。

「そっいえば、お腹空いたな…夕ご飯の準備しよう。」

お腹をさすりながら、夕ご飯を用意する為に立ち上がる。

冷蔵庫に何入ってたっけ？ミネラルウォーターとお酒しか入ってないかもしれない、いや、確か卵と野菜がいくつか入ってたはず…なんて考えながら、私はキッチンへと向かったのだった。

\*\*\*

ゴミ箱に捨てられた白い封筒。

この時の私は知る由もなかった…  
まさかそれがとんでもないシロモノだったなんて…  
知らなかった、何も知らなかった…

## とある女の事情（後書き）

主人公はチートですが、よくある俺TUEEE的な戦闘能力に特化したチートではないです。

主人公は悪女です（なのに愛されです…ご都合主義すみません）  
正直、誰得？ 誰も得しません、私得な物語です。

## とある掲示板のやりとり

VRMMOGゲーム“Wis”について語るスレ【79】

1：ただの名無し：2088/2/24（火） 12：46 ID：???

VRMMORPG“Wis”について語るスレです。

荒らし・煽りはスルー推奨。

次スレは<<888さんにおまかせ。

重複を避けるためにも、早めのスレ建てと誘導をお願いします。

### テスト期間

2088年3月18日（木）14：00～2088年3月21日（日）12：00

### 正式オープン

2088年8月8日（日）

### 前スレ

VRMMOGゲーム“Wis”について語るスレ【78】

2：ただの名無し：2088/2/24（火） 12：48 ID：????

テストー当選者には、2月24日～2月25日の間に当選のお知らせが届きます

こない…こないよ…

3：ただの名無し：2088/2/24（火） 12：47 ID：

???

<<1

乙です

4：ただの名無し：2088/2/24（火） 12：47 ID：

???

こねー

5：ただの名無し：2088/2/24（火） 12：47 ID：

???

同じく、届く気配なし。

噂では倍率500倍？とからしいし…そう簡単には当たらないよな…

6：ただの名無し：2088/2/24（火） 12：47 ID：

???

<<1

乙

KONAI…

7：ただの名無し：2088/2/24（火） 12：48 ID：

???

友達の弟の友達が一番上の兄貴に当選のお知らせが来たってさー

え？俺？俺にはきてないけど？w

8：幸運な名無し：2088/2/24（火） 12：49 ID：

???

そんな皆さんにお知らせです。

当選キターーーーー！！ガチに当選キターーーーー！！

9：ただの名無し：2088/2/24（火） 12：49 ID：

???

<<8

おおおおおおめ

10：ただの名無し：2088/2/24（火） 12：49 I

D：????

<<8

マジか！おめでとう！！

11：ただの名無し：2088/2/24（火） 12：50 I

D：????

<<8

うわー！羨ましい！おめでとう！

12：ただの名無し：2088/2/24（火） 12：50 I

D：????

<<5

500倍！？すげえな、そんなにあったのかよ…知らなかった…

<<8

なん…だ…と…！？羨ましすぎる…本当に幸せな奴だな、おめでと  
う…

13：幸運な名無し：2088/2/24（火） 12：52 I

D：????

テストのレベル上限は1v25

免責保険制度への加入同意と8000円口座振込み必須

テスト参加者には仮想世界内で役立つ素敵なアイテムをプレゼント  
ある特殊クエストをクリアされた方には特別なプレゼント

主な内容はこんな感じ。さっそく銀行行って金振り込んでくるー

14：ただの名無し：2088/2/24（火） 12：52 I  
D：????

<<13  
行つてらー

15：ただの名無し：2088/2/24（火） 12：53 I  
D：????  
<<13

いつてらつしゃい  
確かテスター募集の時書かれてた保険の金額は1万円だったよな？  
安くなつてゐる

\*\*\*

VRMMOゲーム“Wis”について語るスレ【125】

1：ただの名無し：2088年3月19日（金） 17：03 I  
D：????

VRMMORPG“Wis”について語るスレです。  
荒らし・煽りはスルー推奨。

次スレは<<888さんにおまかせ。

重複を避けるためにも、早めのスレ建てと誘導をお願いします。

## テスト期間

2088年3月18日(木) 14:00~2088年3月21日(日) 12:00

## 正式オープン

2088年8月8日(日)

## 前スレ

VRMMOゲーム“Wis”について語るスレ【124】

718:ただの名無し:2088年3月19日(金) 20:33

ID:???

誰か種族と職業教えてくれー！キャラクター作成どんな感じがkws k

719:ただの名無し:2088年3月20日(金) 20:34

ID:???

<<718

前スレに書いてあるぞ、よく読め

720:ただの名無し:2088年3月20日(金) 20:35

ID:???

<<718

ビジュアルはかなり細かく設定出来る、かなり綺麗、そしてかなり作成面倒

種族 ヒューマン、エルフ(ダーク・ハーフ)、獣人(ランダム決定)

職業 ウォリア、ランサー、ファイター、アーチャー、ソーサラー、ブリスト、アサシン

721:ただの名無し:2088年3月19日(金) 20:36

ID:???

迷いまくって俺はキャラ作成だけで1時間以上掛かったww  
しかしこだわっただけあって会心の出来w俺のキャラ超かつこいい  
ぜww

722：ただの名無し：2088年3月19日（金） 20：36

ID：????

<<720

かなり作成が面倒つてのに同意

だから俺はあえてのビジュアル修正無しでいく

723：ただの名無し：2088年3月19日（金） 20：37

ID：????

<<721

ナルシスト？残念なやつww

いくら髪とか目とか体型変えられても、所詮はキャラの顔のベース  
自分だしww

<<722

ビジュアル弄らん奴もいるとは：結構少数派だろ。お前変身願望と  
か無いの？w

724：ただの名無し：2088年3月19日（金） 20：39

ID：????

不細工 ちょっとイケメン、イケメン 超超イケメンって感じで劇  
的にランクアップする感じ？

仮想世界の中では誰もが美形になれる。

ただ、どんだけ弄って美形になっても、面影は不思議と残るんだよ  
な！。

725：ただの名無し：2088年3月19日（金） 20：39

ID：????

## 情報まとめ【1】

### ・キャラクター作成

自分自身をベースに音声誘導に従って作成する  
種族はヒューマン・エルフ・獣人の中から選択  
種族によって初期ステータスに若干差有り  
種族によって職業・魔法属性の固定や制限あり（エルフはブリーストになれない等）

獣人の中にはレアな種類もいるらしい

ダークエルフは テストでは選ばない方が賢明かも

性別は変えられない模様

顔のパーツ（目を大きくしたり鼻を高くしたり）変更可、現実より大幅美化可能

肌・髪・瞳の色変更可、体型・身長調整可、声の変更は出来ない

職業はウォリア、ランサー、ファイター、アーチャー、ソーサラー、ブリースト、アサシン

魔法属性はランダム決定（土・水・火・風・光・闇）

武器支給

### ・チュートリアル

案内人の獣人のお姉さんが現れる（ちなみにネズミ。なかなか可愛い）

冒険者としてモンスターを倒せと、問答無用で町のギルドに連れてかれて登録

「ギルドに行きますか？」と聞かれて「いいえ」を選び続けるとお姉さんに怒られる

ギルドの訓練場でモンスターとの戦い方のレクチャー受ける（スキップ可）

ステータスの説明、スキルの説明、魔法属性について教えてもらう（スキップ可）

初めてのクエストは薬草収集orおつかいorラット（Lv1）の駆除

情報まとめ【2】に続く…

726：ただの名無し：2088年3月19日（金） 20：40

ID：????

<<725

乙です！

727：ただの名無し：2088年3月19日（金） 20：41

ID：????

<<725

魔法属性はランダムじゃなくて好きに選べたらいいのに  
あと不評な点といえば：食事か  
何食べてもなんとなく基本味感じる程度でおいしくないってのはち  
よつとなあ…

728：ただの名無し：2088年3月19日（金） 20：41

ID：????

<<725

おつー

性別変えられないのかーネカマ涙目だなww

729：ただの兎だし：2088年3月19日（金） 20：43

ID：????

俺の友達でさ、ウサギの獣人に職業ランサー選んだ奴がいるんだけ  
ど…

ちなみに男な

730：ただの名無し：2088年3月19日（金） 20：43

ID：????

<<729

ちょwww

731:ただの名無し:2088年3月19日(金) 20:44

ID:???

<<729

どうせネタだろ

ほんとだったら...ごくり...

732:ただの名無し:2088年3月19日(金) 20:45

ID:???

<<729

想像したらフィタw

ウサギ×ランサーとかやつちゃいけない組み合わせだろw

しかも男ってwないわw

733:ただの兎だし:2088年3月19日(金) 20:46

ID:???

<<731

信じるか信じないかはあなた次第です

<<732

偏見いくない

## とある新婚夫婦の会話

「番組の途中ですが、たった今届いた速報をお伝えします 2

088年に起こった『バーチャルリアリティ多人数同時参加型オンラインゲーム“Wis”<sup>ウイス</sup> テストプレイヤー大量同時死亡事件』の、遺族側が運営会社に890億の損害賠償などを求めた集団訴訟の判決で、裁判所はつい先程、遺族側の訴えの棄却を命じました  
『プレイヤーの死亡とゲームの因果関係は現状立証することは出来ない、よって運営会社側に賠償責任は問えない』との弁護側の訴えが全面的に認められた形となるこの結果に、今後社会にもゲーム業界にも大きな影響が出るのは必須で……」

リビングにあるソファーに深く座り、妻に煎れてもらったやや温くなった珈琲を味わいながら、テレビ画面を見つめる。

麗らかな休日の昼下がりを和やかな気分で過ごしていたというのに、この清楚系美人なアナウンサーは物騒な事件を思い出させてくれた。とても美味しかった珈琲が一気に苦々しくなったように感じて、ゴクリと無理矢理嚥下した。

『バーチャルリアリティ多人数同時参加型オンラインゲーム“Wis”<sup>ウイス</sup> テストプレイヤー大量同時死亡事件』

数年前起こった、日本どころか世界中を震撼させた事件である。

仮想世界に潜って、君も冒険しよう！

簡潔だがゲーム好きならば誰もが心踊るであろうそんなキャッチコピーをウリにして、万を期して2088年夏の発売を発表されたのがVRMMORPG“Wis”だ。

仮想世界は元は医療面での利用を期待されて研究されていたのだが、構築に成功するや否や、結局は需要と経済効果からゲームという娯楽に技術は転用された。

仮想世界に潜る為に必要な機械一式、税込みなんと44万（メーカー希望価格）間違っても簡単に出せるような金額ではないが、それでも予約は殺到した。詳しい数は知らないが、風の噂では先行予約の時点で200万セットとかなんとか言うから、凄い。技術大国日本産、世界初仮想世界でのゲーム……というのに誰もが期待し胸をときめかせていたのである。

“Wis”は発売される前から嵐のような社会現象を引き起こしていた、恐ろしいゲームだった。

しかしその“Wis”が本当の意味で恐ろしいものとなったのは、テストが好評のうちに終わり、正式サービスが始まる　　そう、前日のことだった。

2088年8月7日土曜日。

この日、厚生労働省の発表によると3049人の日本人が死んだ。

死というものは人間に対し平等に訪れるもの、日本では平均にする  
と一日に約2000人が病気やら寿命やらで死んでいるらしいが

3049人という人数は些か多いのではないかと感じると思う。  
まあこの日は記録的な猛暑だったし熱中症かなんかで亡くなった人  
が多かったのだらうと結論づけるのは簡単だらう、それも紛れも無  
い事実であるし　　が、しかしだ。ある事実が発覚するや否や、  
瞬く間に日本中、世界が騒然となった。

亡くなった3049人のうち、888人とある共通点が見つかった  
のである。

それは…

“Wis”<sup>ウイス</sup>の　テストプレイヤーだった、という共通点。

\*\*\*

「なあ由香里、あのWisの事件覚えてるか？」

キッチンに立って夕飯の下拵えをしている妻に大きな声で話し掛け  
る。

すると妻の由香里はエプロンで濡れた手を拭きつつリビングにやって来た。

「なあに急に…Wisってアレでしょ、何とかテストに参加した人が大量死した事件。騒ぎになったし覚えてるわよ勿論。」

「何とかテストじゃなくて、テストな。」

先日デパートで買ったばかりのピンクの可愛いフリルエプロンを外して、同じソファアに腰を下ろした由香里に視線をやる。

夕飯の下拵えは終わったのかと尋ねると、バッチリよという返事がウインクと共に返ってきた。

今日の夕飯は好物のビーフシチューと手作りのパン。今から夕飯が楽しみだ…ちなみにデザートは、近所のケーキ屋の一日20本限定フルーツロールケーキらしい。

「それで？Wisの事件がどうしたの？」

「いや、今速報で裁判の判決が出たっていうから…賠償責任は生じないって、遺族側の敗訴。」

「えっ？賠償責任なし？嘘でしょ？」

「嘘ついてどうすんだよ…遺族側が負けたって、本当に。」

信じられないと目を丸くして驚く由香里。

驚くのも無理はない、俺だって驚いている。“W i S”<sup>ウイス</sup>の テストプレイヤーが全員死んだのに、そのゲームを作った会社に何の責任も無いだなんて。遺族側は到底納得なんて出来ないだろう。

「あれだけ沢山の人が死んだのに敗訴って…」

「死因に共通性がなかったのが大きな理由だろうな。心臓発作で死んだ人もいれば、交通事故に遭って死んだ人もいたみたいだし…」

“W i S”<sup>ウイス</sup>の テストプレイヤー 888人（男743人、女145人）が同じ日に死んだのは紛れも無い事実。

しかし、死因までは同じではなかった。それが、この事件の特性を際立たせていた。

心臓発作で死んだ人もいれば、持病を悪化させて死んだ人もおり、交通事故で車に轢かれて死んだ人もいれば、面識の無い他人に電車のホームに突き落とされ死んだ人もいた。更には遺書を残し自殺した人もいたそうだ。

警察ははじめ、仮想世界にいったことで身体と精神に何らかの負の作用が働いたのではないかと考えていたようだが、捜査が進み、テストに応募し当選したもののプレイ自体はしていない、つまり仮想世界に行っていない人が何人かいたことが発覚して、一気に捜査は暗礁に乗り上げた。

ゲームが原因での死ならばある程度は死因に共通点があるはず

しかし、病死に事故死に自殺に他殺と、調べてみればみるほどテストプレイヤー達の死因はバラバラ。警察も訳が分からなかったことだろう。懸命な捜査は一向に報われることなく、底無し沼に足

をとられてしまったかの如く謎は深まるばかりだった。

身の毛がよだつ、不気味な事件。

それが『バーチャルリアリティ多人数同時参加型オンラインゲーム  
“Wis”<sup>ウイス</sup>』テストプレイヤー大量同時死亡事件』である。

そんな事件の裁判である。

運営会社に責任ないという判決には疑問が残る。しかし、ゲームとプレイヤー死亡の因果関係が裁判で立証出来なかったのは、無理もないことかもしれない。

ちなみに、事件が発覚してすぐにゲームの発売は中止、長い年月を掛け精巧に構築されたWisの仮想世界自体も永久閉鎖された。社会に与えた影響が大きすぎたのだ。今や、仮想世界に関するすべてがタブー視されていると言ってもいい。

「……俺さ、実はWisの テスター募集に申し込んでたんだ。」

「え!？」

「今、この場にいることから分かるように…落ちたけどな。」

ぎょっとした由香里の顔を見て苦笑する。

そんなに驚くことか？

テスター募集に申し込んでいた奴は、当時周りに結構ゴロゴロいたんだが。

「亡くなった人達に失礼かもしれないけど、俺当選しなくて良かったよ。」

当選していたら、俺は今ここにはいなかっただろう。  
きっと、死んでいた。

「……ほんとね。あなたが当選しなくて良かった。」

「？」

「改めて思うわ、こうして一緒にいられるのは幸せなことだった。  
一歩間違えれば私たち、出会うことも、結婚することもなかったの  
ね。」

お、なんか良い雰囲気。  
腕にぎゅっと抱きついてきた由香里を柔らかく抱きしめ返す。

「プレイヤー達が何で一斉に死んだのかは今も分からないままだけ  
ど…せめて、安らかに眠って欲しいなと思うよ。」

「安らかに…」

「由香里？」

「そうね、でも…」

何やら不意に考え込み始めた由香里の顔を見つめる。

一体どうし…

「……もしかしたら全員、仮想世界の中で生きてたりするかも。眠ってる暇なんて無いかもしれないわよ。」

良い雰囲気だったのに、台無しだった。

「は？」

突拍子も無い由香里の言葉に瞠目する。

何を言い出すのかと思えば…仮想世界の中でプレイヤーが生きてるかも？

それ一体どこの小説だよ、と言いたくなった。

「亡くなった人達が仮想世界にいたとしたら、少しは救われると思わない？」

え？救われる、か…？

考えてみる。

亡くなった人達は全員 テストプレイヤーである テストに  
応募するくらいだから、少なくともゲーム嫌いはいないはずだ。  
ゲーム好きな人が<sup>ゲームの中</sup>Wisの仮想世界で生きる 確かにそれは、  
ゲーム好きならば嬉しいことかも…しれない。 ちよつとは救われる  
かも…しれない。

「……それって、ゲームプレイヤーの立場でトリップするの？それ  
とも仮想世界の住民として転生？」

「さあ？そこまでは考えてなかったわ。」

「……………」

そっそうだよな、俺は何を聞いているんだ。

由香里の不謹慎な妄想にすっかりわくわく乗っかり掛けた自分が恥  
ずかしい。

「私は…そつだなあ、プレイヤーの立場でトリップする方が面白い  
とは思うけど…ゆう君はどっちが良いと思う？」

「自分が言い出したことなのに設定甘いし、完璧他人事だなおい」

思わずツツコんだ。  
なんかもう、抜けているというか、天然というか…俺の嫁なのに、  
ついていけない。

しかし、ここでふと思った。

“W<sup>ウイス</sup>i S”はVRMMORPG。

危険なクエストに危険なモンスターが沢山いる設定の世界での、冒  
険ゲームだ。

もしも由香里の言う通り、亡くなったプレイヤー達が“W<sup>ウイス</sup>i S”の  
仮想世界にいるとしたら

（彼らには本当、安らかに眠ってる暇なんて一切無いかもしれない  
なあ…）

まあ、所詮はすべて、ただの妄想だけだ。

鬱蒼と生い茂る木々の間から新緑の匂いがそよ風によって運ばれてくる。

空を見上げればそこには“四角い太陽”が燦燦と輝いていた。

「……………」

ビニール袋片手に私は途方に暮れていた。

馬鹿みたいに呆然と立ち尽くしたまま、ただただ頭の中で考える

ここは何処だ、と。

お酒のストックが切れていたことに気付いて、プリントTシャツとズボンとサンダル、極めつけにノーメイクという出で立ちで財布だけ持って家から徒歩5分の場所にあるコンビニに向かった。

ファッション雑誌の立ち読みをして、缶チューハイ一本とビール二本、何だか無性に食べたくなってしまった海藻サラダを買って、店の外に出て。

それで、それで？

ここから記憶が無い。

最後に派手な車のクラクション音が背後から聞こえた気がするが良く覚えてはいない。

「ここ、何処…？」

気がついたら森にいた、なんて…どこその映画か小説のようだ。

というか、信じたくないし認めたくないけれど、明らかに地球じゃないよね？此処。だって…あんな、四角い…詳細に表現するなら正方形ではなく長方形型の、奇怪な形の太陽が我が物顔で空にあるなんて…地球じゃ考えられないし、まずお目に掛かれないものだろう。それに私が立っている周りには、拳大の謎の白い実が生っている木とか、お好み焼きの上に乗った鰹節みたいにくねくねと動いている草とか、十数秒ごとに色が変わる花とか、摩訶不思議なものがいっぱいある　まさにファンタジー。

夢を見ているのだろうかとも思ったが、どうやらそうでもないらしい。

夢じゃない、夢だったら良かったのに。

頬を思い切り抓るといふ古典的な方法で確かめてみたが、普通に痛かった　つまり、有り得ないが現実ということだ。

「どうしてこうなった…」

意味の無い独り言を漏らしたくもなる。

ガサッ

と、ここで。

草陰から音が聞こえた。

嫌な予感がしつつも、恐る恐る音がした方向に視線をやると、そこには…

「…っ！」

見たこともない巨大な蜘蛛がいた。

漏れ出そうになった悲鳴を必死で抑えた。

私の常識や理解の範疇からは逸脱しているが　間違いなく、蜘蛛だ。

血のように赤い体躯に白い斑点、八本ある脚は黒…なんて毒々しいコントラストだろう。

昔、ゴキブリより蜘蛛の方が気持ち悪くて嫌いだと言っていた友達が居た。その時私は、他の友達と一緒にゴキブリの方が嫌だよね等と言っていたのだが…今となってはその発言を撤回したい。すぐ側にいるあの蜘蛛のおぞましさといったら　気持ち悪すぎる、怖い、恐い…身体が震えが、止まらない。

ふいに、八つある黒曜石のような目が此方を向いた気がした。

捕食者の、目。

ゾワツとした。

分かってしまった。

あの化け物は私を獲物だと認識したのだ。

「っ」

私は次の瞬間、生存本能からか全力でその場から走り出していた。此処が何処かも分からない、何処に逃げれば良いかも全く分からない。い。

でも、とにかく今は逃げなくてはならない、死にたくなければ逃げてはならないのだと、混乱しつつも冷静な部分がそう訴える。

私は走った。

ひたすら走った。

行く先を阻む邪魔な草や細枝は手で振り払い、前へ、前へ。

ぼこぼことした足場の悪い森の中、何度か転びそうになりながら人生初と言っていいくらいの必死さで疾走する。そのおかげで手と腕は傷だらけになり血が滲んでいる。痛い……けれど、どうだっていい。

あの化け物から逃れられるのならばこんな些細な傷　私は死にたくない。こんな訳の分らない所で、訳の分らない化け物に、訳の分らないまま殺されて…死にたくない。

「はあっ、はあっ、はあ…」

がむしゃらに走ってどれくらい経っただろうか…5分か10分か、そんなに長くは走っていないと思うのだが。ここへきて、何時間もずっと運動した後のような重い疲労感が私を襲った。苦しくて、息をするのも辛い。

こんなに体力無かったっけ？と自分で驚くと同時に、とうとう足が限界を迎え、動かなくなつて、立ち止まった。

流れ落ち目に入りそうになる汗を手で拭い去りながら、注意深く周りを見渡す。

幸いにもあの化け物の姿は無かった…どうにか逃げ切れたようだ。

「…っ、はあっ、はあっ…は、」

大きく息を吐き、青い空を見上げ目を眇める。

眩しい、そしてやはり、私の知る空ではない。

長方形型の太陽から降り注ぐ陽射しが酷く不快だった…今すぐ空から消えて無くなって欲しいと思うくらいに。

地面が揺れているようだ、ふらふらとした足取りで木影に向かい、

力無く座り込む。ドサツと音を立てて手に持っていたビニール袋が地面に落ち缶チューハイや走ったことで大分シェイクされたサラダが飛び出たが、それを気にする余裕はなかった。きっと私の顔色は最悪だろう。

気持ち悪い、気持ち悪い、気持ち悪い、気持ち悪い、  
気持ち悪い、気持ち悪い、気持ち悪い。

嫌だな、嫌だ、なんだかすごく嫌。

どうして、どうして私がこんな目に遭わなくちゃならないんだろう。  
込み上げる吐き気を目を強くつぶることで堪え、ドクドクと嫌にせ  
わしく脈打つ心臓を押さえた。

頭痛がする。

いたい。

意識が遠のいてゆく。

落ちる、落ちる。

嗚呼…落ち、  
た。

「ん……」

どうやら意識を失っていたらしい。  
目を開いたら、真上にあつたはずの太陽の位置がだいぶ下の方に変わっていた。

寝て起きたら自分の部屋にいた　　なんて、都合の良いことは無かったが、気分は随分良くなっていた。身体に倦怠感はあるもの、先程の調子の悪さと比べたらこれくらいの怠さは軽いものだ。  
木に寄り掛かったまま、近くの地面に落ちていたビニール袋を手繰り寄せる。中身を確かめるが、やはりというか何というか、海藻サラダはひどいことになっていた。ずっと陽に当たっていたし、走った時シェイクされたのかぐちゃぐちゃだし…これはもう食べない方が良さだろう。

（私の海藻サラダ…）

未練タラタラで、サラダを地面に置いた。  
木の下にサラダを廃棄するのは不適切だしどうかと思ったが、このまま持ち続けていたらぐちゃぐちゃだろうが腐り掛けたろうが構わず食べてしまいそうだった…だから、思い切って捨てた。

食べたかった。

けど、今は食い意地張ってる場合じゃない。

そんなことより、もつと重要なこと。

このままいくとたった一人、この周りに木々しか無い場所で夜を過ごさなくてはなくなる件について考えよ　う、うん、考えるまでも無いわ。流石にそれはちよつと、いやちよつとというか…嫌だとか思う以前の問題で、無理だ、有り得ない。

アウトドアに慣れているわけでもないし、マッチもライターも無いので火を起こすことも出来ない…獣避けに夜の森で火が必要不可欠なことくらいは常識として私でも知っている。この木々に囲まれた隠れ場所皆無の場所で、火も無い、視界のきかない暗闇の中…昼間遭遇した化け物がもしまた現れたら？今度こそ死ぬ。死んでしまう。

無理だ、ここでこのまま夜を迎えるなんて、考えるまでもなく無理無理。

というか、今更だが…無防備に寝ていた自分の危うさに背筋が冷える。

生きてて良かった。

と、ごちゃごちゃと考える前にひとまずここから移動しよう。

一カ所に長時間留まっているのも危険な気がする。

それに最低限、夜までに川だけでも見つけておかないと…

本当は今すぐ不貞寝したいくらい、現実と向き合いたくない。  
気が鬱んでいる状態で、不気味な森の中を歩き回りたくない。

でもどうしようもないのだ。

ここにこのまま居座るのは危ない。そしてビール二本と缶チューハイ一本しか手元にないなんて、心許ない。人間にとって水は必要不可欠なものである、この森から抜けるのは容易ではなさそうだし…  
生きたいのならば、水の確保はしておかなくてはならないだろう…  
あと出来れば食べ物も。

まあ、願わくば…

水や食べ物より、最優先で人間を見つけないけれど。

「……………」

人は一人では生きていけないのだと、改めて思い知った気がする。

情けないことに、心細さに少し泣きそうだった。喜々として親元を離れて一人暮らしライフをエンジョイしていたこの私が、一人ぼっちを嫌だと心から思う時が来るなんて…人生って本当に何が起こるか分からないものだ。

人が恋しい、な。

流石に今日中に人と会おうのは無理かなあ…なんて、沈鬱な溜め息をつきつつ。私はのろのろと立ち上がったのだった。

\*\*\*

陽がもう少しで完全に沈む。

「もう嫌…」

時計が無いので正確には分からないが、かれこれ数時間は歩いている。

にも関わらず、水も、食べられそうなものも、確保出来ていない。私の考えが甘かったのだろうか…いや、確実に甘かったのだろう。道中木の実やら果物らしきものを見つけたりしたのだが、思えば、それらが食べられるかどうかなんて私には知識が無いから判断のしようがないのだった。つい先程見つけた黒い<sup>ブラック・ベリー</sup>苺なんか、本当に危なかった…不気味な色だが、紛れも無く苺の形だし香りも甘酸っぱい果物のそれ。直感でこれは大丈夫、食べれそうだと判断、タダで苺狩りだ…なんて思いつつ収穫していたのだが、まさにその時小鳥が飛んできて、小ぶりの黒い苺をパクリと一口　小鳥は痙攣して死んだ。

直感などというものはまったく宛にならないのだと思い知った出来

事である…収穫した黒い苺はその場で即投げ捨てた。更にそれをぐちゃぐちゃに踏みつけたい衝動に襲われたのも致し方ないと思う…結局しなかったけれど。

「はあ…」

精神的疲労はピーク。

今日だけで何度溜め息をついただろう。溜め息をつくとき幸せが逃げる、という迷信がもしも本当ならば、私の幸せストックは底をついただろう…こんな森に居る時点で既に幸せとは程遠いけれど…

「ああ…サンダルがこんなに汚れちゃって…る……………ん？」

土で汚れたサンダルを見て嘆いていたら、遠くから、何か聞こえた気がした。

気のせい？いや、確かに何か聞こえる。

急ぎ足でしかし極力気配を消す努力をしながらその音がした方角に向かうと、喧嘩しているのだろうか。空気が震えるような怒号と金属が打ち合う音がはつきりと耳に届いた。

現場から少し離れている場所から、木の影に隠れるようにして恐る恐る様子を伺う。

もう大分薄暗い為、目を凝らして音の元を確かめる。

（っ、人だ…！）

思わず息を飲む。

そこにいたのは、3人の人間だった。

男2人に女1人

妙な格好をしているし、男が振り回している

あれは剣？それに盾？

良く分からないけれど…推測するに、

3人共、所謂武装というものをしているらしい。

なんて物騒で近寄りづらい…

だがしかし、彼等が人間であるというのは紛れも無い事実。

気が張っていたのをやや緩め、早速近寄って話し掛けようと…したところで、3人以外存在に気付いた。

（なに、あの…気味の悪い…緑の化け物…）

気付きたくなかったが気付いてしまった。

3人は、緑の化け物と対峙し戦っていた。

歪で、気味の悪い、見ているだけで鳥肌が立つような化け物が3匹。昼間遭遇した巨大蜘蛛もかなり醜悪だったが、今まさに彼等が戦っている化け物もまた醜悪で、恐ろしかった。

「おいハヤト、1匹そっちで引きつけてくれ！」

「了解！ルミ魔法はまだかつ！？」

「無垢で清純なる蒼き聖主よ、我が祈りを聞き入れ給え　清冽なる水よ、集い来たれ、集え、集え、集え、理から外れし不浄なりしものを葬り去れ！」

ローブ姿の女の子が何かを唱えると、どこからともなく無数の水の塊が空中に現れ、それらは3匹の化け物に殺到した。

反応が遅れた化け物は、避けることも出来ずに諸に水の塊を身体に受け　相当の衝撃があつたらしい、ギィギィと耳障りの悪い醜い断末魔の叫びを上げ…地に倒れた。

「やっぱ魔法つえーなあ。詠唱には時間掛かるけど、攻撃手段としてはピカイチ。」

「今回は言い間違いをしなかったからちゃんと発動したな……途中つかえてはいたけど。」

「むうつエイジったらレミのこと馬鹿にしてるでしょっ！レミは学習能力ある大人なんだから！！前回みたいな詠唱の間違いもう絶対しないもんねっ！」

「どうだか…ま、ひとまず魔法書無し詠唱出来るよう頑張れ。」

「魔法書無し！？えええっ…それは無理だよお…レミ、暗記とかすっごい苦手で…」

「いや、でも威力のこと考えるとやっぱり魔法書より杖の方が良いだろ？頑張れよ。」

「うう…それは分かってるけど…」

ゴソゴソと慣れた手つきで化け物の死体を漁りながら、軽快に会話を交わしている3人組。正確に言うのなら死体を漁っているのは男性陣で、紅一点女の子は分厚い本を抱え側で立っているだけなのだ

が…それでも醜い化け物の死体を近距離で直視しているのは間違いない。良く平然としているな、と感心すると同時に驚いた……私だったら気持ち悪さにとくに逃げ出している。

（何だか話し掛け辛いなあ…）

親密な雰囲気の中に入っていくのは躊躇われる。  
しかし背に腹はかえられないわけで。  
勇気を出して、身を隠していた木影から出て行った。

「あの…」

ひかえめに声を掛けてみた。  
すると…

「誰だっ！」

「敵かつ!？」

瞬時に臨戦体制。

驚かすつもりはなかったが、驚かせてしまったようだ。  
女の子は目を見開いてパチパチと数回瞬きするだけだったが、男性陣は見事に警戒モード。

女の子を背に庇いつつ、剣と槍を構えて牽制してきた。

下手なことを言ったら突撃されそうな危うい雰囲気である。

親の仇とでも言わんばかりの鋭い眼光に射抜かれて、思わず半歩後退る。

「て、敵意は無いです…あのっ、私気付いたら森の中にいて…それで…」

とにかく何か言わなくてはと、しどろもどろに事情を説明する。敵意は無い、気付いたらこんな森にいて困っている、誰かいなかと彷徨い歩いていた、と。

ひどく纏まりの無い内容だったが、私の必死だけは伝わったのか、暫くして剣と槍は下ろしてくれた。

3人は困惑した様子で顔を見合わせ、ボソボソと何かを話し合い始めた。

私もまた困惑して3人を見つめ、話し終わるのを所在無く待つ。

「ねえ…あなたもレミ達とおんなじ、     テストプレイヤーだよね？」

話し終わったのか、女の子が話し掛けてきた。

残念ながら聞かれた内容の意味は全く分からなかったが。

「     テストプレイヤー？ごめんなさい…良く分かりません。」

「あれれ？でもその格好といい見た目といい日本人なのは間違いないよね？」

「え？日本人…ですけど…」

「うーうーん？落ち人なのは間違いないのに、プレイヤーじゃないってどういうことお？」

うんうんと唸りながら首を傾げる女の子につられ、私も首を傾げる。

「<sup>ウイス</sup>Wis” ってゲームは知ってるか？」

「テスト当選通知を受け取った覚えは？2月の下旬頃。」

男性陣からも問い掛けられる。

「<sup>ウイス</sup>Wis”

“テスト当選”

それらの言葉を聞いて、んん？と思った。

何だか覚えがあるような あ… あった、あるある、覚えがあった。

思い出されたのは、詐欺だと思って捨ててしまった大きな白い封筒のこと。

確か“W i S”やら“テスト”やら私には良く分からないことが色々書いてあった、あれか。

「……8000円振り込め、とか書いてあったやつですか？」

「そうそう、免責保険の8000円な。」

「プレイはしてないみたいだけど、仮説は崩れてないな。」

「ねっ！やっぱりあたし達の仮説当たってるっぽいね。」

仮説とは一体何なのだろう？と思ったが、今は聞けなさそうだ。というのも、

「ひとまずメンバーと早く合流したいよね。どうする？」

「多分あいつらシャルバールの方にいると思う。」

「シャルバールか…なあ、それ俺も一緒に行ってもいいか？というか正式にメンバーになりたいんだけど…流石にこの状況でソロはきついわ。」

「もうっ何言ってるの？エイジはもうとっくに私達の仲間でしょう！一緒に決まってるじゃん！！ね、そうだよなハヤト？」

「ああ、一緒に行こうぜ。」

きゃっきや言いながら可愛らしく笑む女の子。  
肩を組んで仲良さげに話している男性陣。  
そして、一人寂しく立っている私。

「……………」

会ったばかりだから仕方がないのかもしれないが、会話に全くついていけない。  
私は空気の読める人間なのだ。盛り上がってテンションの高い人達の中にズカズカと入っていける訳がなかった。

(うつん…居心地、悪いなあ…)

居心地悪いだなんて失礼なことを考えられる立場ではないということとは重々分かつている…彼等に見捨てられて困るのは私なのだから、どうも私と彼等では根本的に性質タイプが違うというかなんというか…平時だったらずまず話し掛けないし、友達になろうとは思わないだろう。それくらい、今この場所に一緒にいることに違和感があった。

つまるところ、早くも分かってしまったのだ。

私の思い込みかもしれないし、勘違いかもしれないけれど。

私と彼等は…

“ 合わない ”

夜が訪れた。

空にはキラキラと輝く満天の星々と三日月…… どのような原理だから、  
つとも分らないのだが、昼間の四角い太陽が沈んで夜がやって来  
たと思ったら、空にはプカプカと三日月が浮かんでいた。そう、三  
日月である…… 色はピンクグレープフルーツの果肉のような色だけ  
ど、間違いなく三日月である…… 若干の差異や違和感はあるもの  
元の世界とそうは変わらない、夜のシンボル三日月。そんな夜空を  
見上げていると、何だか暗澹としていた心が癒される気がする……  
が、肝心なことを忘れてはならない。今自分が居るこの場所が、異  
世界でしかも不気味な森だということを。ほっと一息ついている場  
合ではないのだ。

夕方に出会った三人組に引っ付いて、野営場所にやって来た。  
野営場所と言っても、水場も無いただの平坦な場所である。こんな  
場所で大丈夫なのだろうかと不安になったが、荷物を置き、慣れた  
手つきで作られた焚火の周りを囲むように三人が地面に座り込んだ  
のを見たら、何も言えない。私も慌ててそれに続いた。

火に集る<sup>たか</sup>ように無数の小虫が耳障りの悪い羽音を響かせ飛び回っ  
ている。

虫鬱陶しいな…なんて頭の中で考えていたら、話が始まった。

「えっと、改めまして？自己紹介するね。名前はレミ。職業はソーサラー、レベルは23、見ての通りヒューマンだよ」

無理に作ったのであろう笑顔で、そしてわざとらしい明るい声音で自己紹介した女の子の名前は、レミ、と言っらしい。

ふわふわとした柔らかそうな茶色い巻き髪。人形のように大きい瞳に長い睫毛。顔のパーツはどれもとても整っていて、尚且つバランス良く配置されている……若干童顔かもしれない、アイドルのように小柄で可愛い子だった。

「俺はハヤト。ウォリアでレベルは25。よろしくな」

次に自己紹介したのは、若干色黒の男の子。何を考えているのか、いや、何も考えていなさそう……軽薄な笑みを口許に浮かべている。背は高く、十人中八人は格好良いと言っだろう、顔も整っている……私の好みではないけれど。

「エイジ。ランサーでレベルは25。ソロで気楽に気儘に遊んでたが、こんな状況じゃな」

最後に自己紹介したのは、やや目つきの鋭い男の子。

この中では一番背が高く、そしてガタイも良い。筋肉がムキムキという訳ではないのだが逞しい。無駄な肉が無さそう、という一流アスリートを前にしたかのような印象だ……ちなみに、当然のように彼もまたイケメンである。

見事に三人共美男美少女。

目の保養になる……が、それより、自己紹介の言葉の内容の方が気になって仕方ない。

「……………」

自己紹介を聞いてまず思ったのは “職業” って、何？だ。

ソーサラーにウォリアにランサー？それにレベルって？何それ意味が分からない。

ヒューマンという言葉の意味は流石に分かる、英語で人間という意味だ 当たり前である。わざわざ教えられなくても、目の前の三人が人間だってことは明らかだ。

「モチツキ リリコ望月莉々子、です……あの？職業って…？」

説明を求め視線を三人に向けると、レミが誰より早く口を開いた。

「そもそもさーりっちゃんはW i Sが何だか知ってるの？」

「…いえ、知らないです。」

りっちゃんとさりげなく言われたことが気になったが、ここはスル

ーだ。

そんなことより現状を把握したい……何しろ何も分からないのだ。  
無知は恐怖。些細な情報でも喉から手が出る程欲しい。

「知らない！？冗談抜きにまったく！？」

「知らない、です。」

「でも当選通知が来たってことは テストに応募はしたんだろ？知らねーっておかしくね？」

レミはオーバーリアクションでとにかく驚いていた。  
ハヤトが口を挟んでくる。

「ほ、本当に知らないんです。当選通知だって届いた当日に捨てましたし……」

そう、捨てた。

新手の詐欺だと思い込んで。  
だって訳の分からない内容だったから。

「本当に知らないとは……」

三人共、心から驚いているという表情を浮かべている。

“Wi<sup>ウイ</sup>S”はそんなにも有名なものなのだろうか。自分は一般常識も知らない世間知らずだったのだろうかと心配になる。

「もしかしくともりっちゃんって、ゲームとかに疎いタイプ？」

「ゲーム？ゲームは全然……しないです。家にはテレビも無いしパソコンは持ってますけど、ネットはしません。」

「絶滅危惧種アナログ人間！？」

絶滅危惧種というのは大袈裟だが、今時珍しいくらいデジタルなもののは苦手だ。

テレビは見ないからいらないし、パソコンだってレポートや課題をするときに使うだけで、ネットはほとんどしない。テレビにゲームにパソコン……デジタルが溢れるこの時代の中で、私は結構なアナログ生活を送っている。ちなみに新聞を読むのは好きだ。

外出時、財布とハンカチに並ぶ必需品と言われている携帯電話でさえ、上手く使い熟せないし、しょっちゅう携帯し忘れるくらいだ。

デジタルは確かに便利だけれど……

私の趣味はお酒と読書      アルコールを摂取しながら静かに本を読むのが何より好き。

アルコールと本さえあれば私は何時間だって過ごせるだろう……つまるところ、私は、デジタルが無くともアナログで充分満たされるしやっていけるのである。

幼い頃から機械音痴だから、自然とデジタルを忌諱<sup>きん</sup>するようになった、って理由もあるけれど。

「話逸れちゃったけど……W i Sは世界初のVRMMORPGだよ。簡単に言くと仮想空間の中でするゲーム。」

「仮想……あー……ああ、」

仮想空間の中でゲームをする技術が確立されたのは知っていた。そのゲームのタイトルが“W i S”<sup>ウイス</sup>か。なるほど、知らなかった。

「それでね、単刀直入に言うけど、今居るこの場所はW i Sの中で間違いないと思う。」

「……え……」

な、何だって？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5747v/>

---

奴隷商人の娘

2011年8月27日11時11分発行